

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 れもんkids		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境の構造化と情緒への配慮	絵表示(パソコン室、トイレ等)による視覚的な環境設定や、クールダウン室・箱庭の部屋の設置により、子供が気持ちを切り替えやすい工夫をしている。	環境設定の効果をその都度振り返り、個々の特性に合わせた配慮をさらに深化させる。
2	保護者・家族間の交流促進	長期休暇中に親子フットサルやクッキングを実施し、保護者同士やきょうだい間の交流機会を積極的に設けている。	夏休み等、保護者が参加しやすい時期を考慮した面談や相談支援を継続し、家庭との共通理解を深める。
3	地域社会との積極的な連携	クリスマス会に自治会長や地域の子供を招待するほか、他事業所との合同行事を実施し、地域に開かれた運営を行っている。	インクルージョン推進の観点から、保育所や幼稚園等との交流機会を維持・拡大していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関係機関との情報共有の頻度	地域の保健・医療・教育機関等との連携体制はあるものの、多忙等により情報共有のための時間が十分に確保できないケースがあるため。	会議への参画や連絡調整の機会を意識的に増やし、より密な外部連携ネットワークを構築する。
2	アセスメントツールの活用と習熟	日々の行動観察(インフォーマル)は行っているが、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントの実施・評価に課題があるため。	プログラム検討会やミーティングでの事例検討を強化し、客観的な分析に基づいた支援計画の作成精度を高める。
3	専門的な家族支援情報の提供	ペアレント・トレーニング等の具体的な支援プログラムの実施や、専門的な情報提供がまだ限定的であるため。	家族のニーズに応じた外部研修情報の提供を徹底し、事業所内でも実施可能なプログラムを検討する。